

Spingence(偲健科技)は、2015年の設立以来「AI×Manufacturing」を掲げ、製造現場の革新を支援し続けています。

【3つの強み】

現場で鍛え抜かれた確かな実績AI画像検査からスタートし、半導体やコネクタなど、極めて高い精度が要求される製造現場でノウハウを蓄積。現在はEdge AI、企業向けオンプレミスAI、Physical AIへと領域を拡大しています。

独自の中核技術「SPAK」AIインフラ、デジタルツイン、AIモデル、現場実行をすべて統合する「SPAK(Spingence Physical AI Kernel)」を展開。

「工場のAIオペレーティングシステム」仮想工場と実工場をシームレスに接続。「実証実験(PoC)で終わらないAI」として、検証から現場への確実な導入を劇的に加速させます。

SPAK | 工場を動かすAIオペレーティングシステム AIインフラ構築からサイバーフィジカル統合まで。工場を、AIネイティブへ。

デジタルツイン：
NVIDIA Omniverse™による
仮想工場の構築

オンプレミスAI基盤：
企業内のAIサービスを一元
管理する基盤を構築

Physical AI スマートファクトリー：
AI駆動によるスマートファクトリーを実現

企業にもたらす3つの価値



AI導入の加速と定着

個別の用途から、社内のAI活用を段階的に広げ、深めます。



意思決定の高度化

データとAIの活用で、分析・予測・意思決定を支える企業の中核能力へと導きます。



AIを事業成果へ

技術検証にとどめず、実業務でのAI活用により、業務効率化と生産性向上につなげます。



SPAK (Spingence Physical AI Kernel) | AIファクトリーの中核技術をつなぐ

企業がAIを導入するために必要なのは、単一のソリューションではありません。用途に応じて柔軟に拡張でき、企業活動へ継続的に組み込める「AI基盤」こそが不可欠です。

SPAKは、「AIネイティブファクトリー」の実現に向けて設計された統合プラットフォームです。「生産現場」、「管理センター」、「企業インフラ」、「仮想工場」という4つの代表的な領域を支え、AIコンピューティング、データ、モデル、アプリケーションを統合します。

生産ラインのエッジにおけるリアルタイム推論から、工場全体の分析・意思決定まで、共通のアーキテクチャで多様なコンピューティング規模に対応。既存のユースケースを起点にAI活用を段階的に拡大し、認識、分析、意思決定、実行、継続的な改善へとつながるAI駆動型サイクルを形成します。

Physical AI スマートファクトリー

現場のセンシングから高度な意思決定まで、AIを生産現場の力に

Physical AIを中核に、製造現場へ深く入り込むエッジセンシング基盤を構築します。外観品質、作業者の行動、各工程のデータを横断的につなぎ、AIが現実世界の変化を捉えられるようにすることで、複雑な現場情報を信頼性の高いリアルタイムの意思決定へ変換します。

AINavi - AI外観検測システム

高精度製品に特化した、次世代のAI外観検査ソリューション

現場行動・安全認知

厳しい製造工程に対応するに、安全行動認知と労働災害防止ソリューション

工程別歩留まりデータ分析

各工程の品質相関を可視化し、歩留まり改善につなげる分析ソリューション

デジタルツイン

人材育成から現場実装まで、仮想工場の導入を加速

NVIDIA Omniverse™とOpenUSDを基盤に、技術トレーニング、シーン構築、工場シミュレーションまでを支援し、企業がデジタルツインを自律的に活用できる力を段階的に育成します。

仮想環境上で設備、工程、Physical AIのユースケースを再現し、実際の導入前にテストと検証を行うことで、現場での試行錯誤にかかるコストを削減します。

SpingenceはSpinzoneを通じて技術導入のハードルを下げ、仮想環境と実環境を接続。デジタルツインを仮想モデルから現場の意思決定へと発展させます。



Edgestar | オンプレミスLLM導入ソリューション

企業向けオンプレミスAIインフラ

企業AIの基盤を構築し、自律的で持続可能なAI活用を実現

AIを継続的に活用するには、安定性と拡張性を備えた基盤が欠かせません。Spingenceは、企業内に高性能GPUクラスターを設計・構築し、高い柔軟性と広帯域を備えたオンプレミスAIインフラを実現します。コンピューティング基盤からAIモデル、APIサービスまで、企業が自ら管理できるAIリソース環境を構築します。

Edgestar Managerにより、GPUクラスターの計算資源、モデルのデプロイ、AI APIを一元管理。異種AIモデルや多様なアプリケーションをオンプレミス環境で効率的に運用できます。実際のワークロードに応じてリソースを柔軟に割り当て、水平拡張にも対応。データガバナンスとセキュリティを確保しながら、自社で制御可能な専用コンピューティング基盤を整備し、企業のAI主権を確立します。

